

心をはぐくむ豊かな体験活動

- ボランティア体験活動と職場体験活動の推進を通して -

佐賀県鳥栖市立基里中学校

1 取組の概要及び成果等

本校生徒は、校区内の基里小学校1校からほぼ全員が入学し、9年間ほとんど児童生徒の構成が変わらないこともあり、和気あいあいと仲がよい。その反面、限られた人間関係の中でなれ合いになり、自主的に個を高め、向上しようとする意欲が不足し、自分の考えを言葉で表現することが苦手である。

一方、こうした子どもたちを取り巻く家庭や地域社会は、人と人のつながりが希薄となり、教育力の低下の傾向が見られる。時代に翻弄されることなく、心豊かで、自己実現に向けてたくましく行動する生徒を育成するには、「学校」「地域」「家庭」の三者がそれぞれの役割と責任を自覚し、連携していくことが欠かせない。

生徒が家族や地域に「くらす」人々とかかわり合いながら、豊かな体験活動を展開することは、本校の教育目標「自ら考え、正しく判断し、たくましく行動する人間性豊かな生徒の育成」の具現化にもつながるものである。

本年度は、心をはぐくむ豊かな体験活動として、全学年を対象としたボランティア体験活動、そして、第2学年を対象とした職場体験活動を推進している。

ボランティア体験活動は生徒会を主体に計画・実践をすすめている。また、職場体験活動は、これまで3年間積み上げた総合的な学習の実践を基盤に、3日間の活動を展開している。これらの学習を通して、たくましく行動する人間性豊かな生徒の育成に努めたい。

(1) ボランティア体験活動の概要

名 称	場 所	人 員 対 象	内 容
啓心会病院訪問	啓心会病院	約30名	交流会,介助(5・7・12月)
ボランティア体験スクール参加	真心の園	4名	介護体験等(8月)
若楠療育園訪問	若楠療育園	約30名	車いすの清掃等(2月)
ユニセフの活動紹介,発表,掲示	校 内	全校生徒	生徒会による啓発活動
使用済切手,テレカ収集	校 内	全校生徒	ユニセフの寄付活動
アルミ缶回収,寄付	校 内	全校生徒	リサイクル活動
白い羽根・赤い羽根募金活動	校 内	全校生徒	募金活動
GF(グローイングフラワー)運動	学校園	約80名	球根,花苗植え(10・2月)
緑の体験学習	校舎周辺	約150名	親子での除草活動(8月)

(2) 特に工夫や配慮をした事項(職場体験活動を中心に)

活動のねらい

ア 職場で様々な人と接しながら、人間関係の大切さを知り、新たな自己を発見させる。

- イ 実際に汗を流して働く体験を通して、働くことの尊さを肌で感じ取る。そのことを通し、身近な人々の仕事を理解し、自分の生活を見直す機会とする。
- ウ 地域に学び、共に生きる心・感謝の心を育み、自立性を高めるなど「生きる力」の育成を図る。
- エ 保護者、地域社会、関係諸機関との十分な連携を図り、開かれた学校づくりを推進して、新たな教育の創造につなげる。

全体の指導計画

ア 教育課程上の位置付け

- ・ 2年生の活動として、5月の職業人講話（4回）、6月の職業聞き取り調査（3時間×3日間）、10月上旬の職場体験（6時間×3日間）を中心とした活動である。
- ・ 総合的な学習の時間等を中心に実施。

職場体験活動実施学年

第2学年（3クラス81人）

実施内容

- ア 日数 10月2日（水）から10月4日（金）までの3日間（18時間）
- イ 活動時間 原則として9：00～15：00
- ウ 事業所数 38（複数体験者37名）
- エ 活動内容
販売業、製造業、飲食店、美容室、保育園、幼稚園、建築業、商工会議所
福祉介護、図書館、自衛隊、保健センター等
- オ 活動の決定
鳥栖市内を原則として、生徒の希望をもとに交渉を行う。

職場体験活動の実際

ア 事前指導 ～ 「つかむ」段階

- ・ 自分を知る（興味・関心・適性について）
- ・ 職業人講話（校内で社会人講師の体験談を聞く体験活動、4つの職種）
店主、医師、保育士、国際交流員の講話を聞き、苦勞して働くことの大切さに共感することができた。
- ・ 第1次職業調査（聞き取り等の校外での体験活動・3時間×3日間）
社会や職業に目を向け「社会は大変だ」「服装をびしっとしたい」という感想を持った。職業の世界への興味や関心を、緊張感を持って広げることができた。
- ・ 職業調査発表会
- ・ 上手なアポイントの取り方・正しい敬語の使い方
- ・ 職場体験活動のガイダンス、事業所の希望調査と決定
- ・ 受け入れ事業所への生徒あいさつ、事前訪問、通所経路の確認

イ 活動の展開 ~ 「かかわる」段階

・ 活動状況

- 生徒たちはとまどいながらも生き生きとした表情で活動していた。
- 体験期間中は家庭から直接事業所に通い、指導を受けた。部活動にも参加しない。胸には「職場体験実施中」と明記したプレートを付けた。
- 各受け入れ事業所も学校の活動を理解していただき、きめ細かく対応していただいた。

・ 活動の支援

体験期間中は出欠確認、巡回指導、連絡調整、写真による記録のために、事業所の訪問・巡回をした。小規模校のため、他学年の授業や出張もこなしながらスケジュールを調整したが、学年担当の4人で1日に38の事業所を回ることは困難である。そこで、校長、PTA役員、保護者の協力を得て、実施期間中にどの事業所も1回は必ず訪問することとして予定を立てた。保護者も、我が子の真剣な姿に、教科の学習とは違う「学び」や「成長」を感じ取っていた。

ウ 事後の指導 ~ 「表現する」段階

- ・ ポスターセッション方式の学年発表会を開き、全生徒が訪問事業所について体験発表を行った。
- ・ 事業所への手紙（終了直後のお礼状）を送った。礼状からは感謝の気持ちと心の成長を感じとれた。

体験活動の手立てや工夫

ア 体験的な活動の取組を紹介した学校パンフレットを制作し、全ての保護者や地域の関係機関等に配布し、理解と協力を求めた。

イ 商工会の協力により、市内の主な事業所に、生徒受入れについて依頼状と調査用紙を送付し、回答によって事業所のリストを作成し、受け入れの交渉にあたった。

ウ 随時、活動の様子を学校便りや学年通信で地域や保護者に配信した。このことによって、協力や理解の輪が広がっていった。

エ 事前活動期間も含めて傷害及び損害賠償保険に加入し、活動中の事故や破損に備えた。

(3) 活動の評価方法

保護者・事業所へのアンケートや生徒が書いた感想や自己評価、生徒同士の相互評価により活動全体の評価を行った。

(4) 成果等

一人一人が社会的な有用感を得ることができた。

- ・ ボランティア体験や職場体験でお年寄りのお世話を通して、真心で接することや感謝されることの喜びを感じた。社会の中で役立つ存在感を感じる貴重な体験ができた。

思いやりや協調性が身についた。

- ・異なる立場の人々との協働や奉仕を通して、共に助け合うことや相手の立場に立って行動する行動することをおぼえた。

コミュニケーション能力や社会性が身についた。

- ・目上の人と職場の中で働き、相手からの指示ではなく、自分から聞かなければならなかった3日間は本当に貴重な体験だった。生徒は社会人として必要な挨拶・言葉遣い、服装・身だしなみ等、家庭や学校でいわれている基本的な生活ルールやマナーについても指導され、接客する上で大事なことを確認した。

職業観が大きく具現化した。

- ・3日間の体験活動を通して、体験内容を深く、広く行うことができ、その職業を多角的に理解できた。生徒の多くはまた行きたい、今度は別の職種を体験したいと言っており、今回の体験は、生徒の職業観を大きく具現化した。

2 学校の推進体制と学校支援委員会の活動

体験期間中は、巡回指導等が必要だが、小規模校のため学年担当の4人で、38の事業所を回ることは困難だった。そこで、学校支援委員会の働きかけのもと、校長・PTA役員、更には生徒の保護者に事業所を訪問していただいた。

こうしたことで、各受け入れ機関も学校の活動を理解していただき、きめ細かく対応していただいた。

【学校支援委員会の構成】

勤務先又は機関・団体名	職名	備考
	野鳥の会会員	少年補導員，元教育相談員
鳥栖市商工センター	専務理事	
鳥栖市役所	育友会会長	
基里中学校	校長	

3 今後の課題と次年度に向けての改善点

(1) 生徒の希望との不一致

- ・生徒の希望職種の確保が難しい。希望職種を第1優先にして調整したが、納得する職種で体験させるまでに困難があった。

(2) 受け入れ時期・人数等の制限

- ・事業所によって受入れ人数を制限されたり、時期が限られる職種があり、調整が大変だった。

(3) 安全の確保

- ・生徒同士で決めた場所に集まり、自転車で職場に通う生活をさせる中で、交通安全に気を遣った。職場を巡回する中や班長に報告させる中で自転車の乗り方等については必ず安全を確認した。

(4) 各中学校間の連携や調整

- ・鳥栖市内全中学校が実施する中で、事業所の都合も考えた。今後、各中学校間の連携と調整や事業所との調整が必要であろう。